

ヒガンバナは見直された

ヒガンバナが日本人の好みに合わないという話は、過去のものになった。不思議といえば、不思議である。

欧米では、ヒガンバナ属をリコリスとして、園芸植物に利用している。その影響も理由の一つだろうか。

私自身は、ヒガンバナを「花サイクル」に採り上げるに当たって、なんども迷った（2003年頃）。どこかにヒガンバナを忌む気持ちがあった。昔の大人に植えつけられた、子供時代の残映である。

ヒガンバナには、曼珠沙華（まんじゅしゃげ）、死人花（しひとばな）などという異名が残る。死界、霊界からの誘惑を象徴する花に変わりはないのだろうか。ヒガンバナの花言葉は、悲しい思い出。





~~~~~